

中国における日本サブカルチャーの受容に関

する研究

— アニメ受容の史的展開 —

(要旨)

広島大学大学院文学研究科

博士課程後期人文学専攻

学生番号           D113416

氏名               郭  閔 華

現在、国外では日本が誇るソフトパワーの代表こそアニメーションであるとも言われており、日本のアニメが世界的に注目されている。例えばそれは、英語、仏語、西語などの欧米語圏において、日本製アニメのことを「anime」という日本語が由来の外来語で表現していることから伺える。この日本製アニメの世界進出の担い手となったのが、いわゆる「おたく」と呼ばれる人々である。この「おたく」という言葉には様々な意味や解釈が存在するが、本研究においては日本のサブカルチャー、特にその中でもアニメを愛好する若者と暫定的に限定して論じていく。彼らは「おたく文化」と呼ばれるいわゆるサブカルチャー的文化を形成し、日本に留まらず、世界へと発信している。以上のように、日本製アニメの世界進出における「おたく」の役割は極めて重要なものである。

日本製アニメが席卷する世界の潮流に同じく、中国においても日本製アニメは、インターネットの発展とともに伝播・浸透が加速され、若者たちの人気を集めている。そして、日本本国と同様に、いつからか「おたく」と呼ばれる人々が現れ、日本製アニメの普及に一役買っている。しかし、中国の場合、欧州や米国など他の世界各国とは異なる日本との関係を背景としている。まず、旧日本軍に侵略を受けた歴史があり、その傷跡は今でも根強く残っている。また、近年においても、尖閣諸島(中国語表記：魚釣島)の領有権を巡って対立している。このような背景から、中国人民の対日感情は良いとは言える状況ではない。では、中国における「おたく」は、そのような背景を持ちながらも、なぜ日本製アニメを愛好し、また、どのような思いを抱いているのであろうか。そして、中国での日本製アニメの発展における彼らが果たした役割とはどのようなものなのか。

先行研究を見る限り、中国において日本製アニメがどのように発展してきたのか、またその要因となる日本のサブカルチャーの魅力とはどのようなものなのかということを経体系的に整理したものは見当たらない。そこで本研究では、日本製アニメ文化がどのように中国に伝播したのかその史的展開を整理し、日本製アニメの受容過程と実態とその社会背景を描き出していくとこ

ろから始める。次に、現代中国における日本製アニメの伝播と受容の立役者である、字幕をつけるファンたちに焦点を当て、彼らの属性や主な業務内容、さらに、彼らを突き動かす成員の意識を分析する。

以上より、本研究では、日本文化の中でも、特に、アニメに焦点を当て、受容・伝播の過程を歴史的に描き出す。その際、テレビ局が主導して受容・伝播していた 00 年代までは、その過程を歴史的に整理し、それ以降のインターネットユーザーが主導した 00 年代以降に関しては、社会的調査を用いて、社会史的に描いていく。この 2 つ手法を併用し、世界に発信する日本製アニメ文化を学際的・国際的視点から相対化しつつ多角的に考究するにあたって、思想文化・歴史文化などの領域に重点を置いて全体像を捉えていく。中国における日本製アニメの伝播・受容のプロセスの史的解明を通して、地域を越えた日本アニメ文化の将来的可能性に関して考察することを目的としている。

本論文は序章を含む 7 章で構成される。具体的な内容は以下の通りである。

序章では、まず日本製アニメの中国進出と席卷の現状を取り上げ、研究動機や中国における日本製アニメの地位を問題所在として提出した。また、日本製アニメが日本での研究遅れや注目足りないと中国政府のアニメに関する政策を問題の背景として論じた。次に、アニメ研究を新たな「学」とすることで、理論研究の方にも様々な可能性がうまれる。構築主義、コミュニケーション・メディア理論、カルチュラル・スタディーズ、ファンの理論など多様な側面からアニメ受容に関する理論を論じることを試みた。最後に研究目的を述べた。

第 1 章では、中国テレビにおける日本製アニメの受け入れ過程を歴史的に整理していく。先行研究によると、日本製アニメ文化が中国に伝播していく過程を 3 つの段階とされる。しかし、具体的な各段階のデータが明示されておらず、具体化していく必要がある。本研究では、80 年代以降の番組新聞など資料を調べ、中国上海地域におけるテレビ局の発展、上海テレビ局と日

本の関係を述べ、さらに放送データを調べ、上海地域で放送された日本製アニメを4つの段階を整理し、北京・福建・上海地域の日本製アニメの放送比較しながら、日本製アニメの受け入れ歴史状況を明らかにした。

第2章では、中国のインターネットにおける日本アニメの配信状況を調査した。中国におけるインターネット映像配信が6つの種類に分類され、その中、日本製アニメを配信するとしては、動画共有系「土豆」「優酷」と代表する、P2Pストリーミング系が「PPS」を代表するという2つの配信状況に紹介した。ここで特に日本製アニメファンがよく利用しているP2P系サイト「極影サイト」を紹介した。新作日本製アニメのダウンロード数を統計していた。

第3章では、日本製アニメの翻訳を競争激しいファンサブ（字幕を付けているファングループ）の正体を調査した。第1節ではファンサブの歴史、第2節ファンサブの仕事手順、第3節中国における日本製アニメファンサブの実態、第4節ファンサブに関する法律問題、第5節ファンサブに関する論説を展開で論じた。

第4章では、ファンサブに関するアンケート調査を実施し、分析した。本調査は主に8個ファンサブグループの支持を得て、179名ファンサブメンバーの協力をもらった。アンケート調査を通して、ファンサブメンバーの属性、ファンサブで果たす活動に関する基本概況、活動と日常生活の関係、日本製アニメに関する意識を把握した。

第5章では、ファンサブに関するインタビュー質的調査を実施した。ファンサブメンバーは具体的にどのように日本製アニメを愛好するだけにとどまらず、ファンサブ活動に加わるプロセスやファンサブ活動を継続している具体的状況を究明することをグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析し、23人のファンサブメンバーをインタビュー実施・分析した。

終章では、日本製アニメ受容の展開、ファンサブ活動の役割で日本製アニメの伝播・受容プロセスを述べる。そして、その結果を踏まえた上で、アニメ

メという事例を通じた日本サブカルチャーや日本文化についての捉え直しを行なっていきたいと考える。